第１学年○組　道徳科学習指導案

１　主題名　誠実な生き方　　　内容項目［A　自主、自律、自由と責任］

２　ねらい　主人公「美香子」の気持ちや行動を中心に話し合う活動を通して、自分で判断し実行することの大切さに気付き、自分の気持ちに誠実な行動をとろうとする態度を育てる。

教材名　「私たちの初詣」　　　（出典　彩の国の道徳　「自分を見つめて」　埼玉県教育委員会）

３　主題設定の理由

⑴　ねらいや指導内容について

「自主的に考え、判断」するとは、他人の保護や干渉にとらわれずに、善悪に関する物事などについて幾つかの選択肢の中から自分で最終的に決めることである。また、「誠実に実行する」とは、すがすがしい明るい心で、私利私欲を交えずに真心を込めて具体的な行為として行うことである。自ら考え、判断し、実行し、自己の行為の結果に責任をもつことは大切である。また、物事を深く考えず安易に他人に同調したり、責任を他人に転嫁したりするのではなく、自らの規範意識を高め、自らを律しなければならない。中学生の時期は自我に目覚め、自主的に考え、行動ができるようになる。しかし、周囲の目を気にして他人の言動に左右され、流されやすい面もある。また、自分のとった行動が自分自身や他人にどのような結果をもたらすかということを深く考えないまま、無責任な言動をとってしまうこともある。物事を主体的に冷静に判断し、誠実に望ましい行動をとることは、人としてよりよく生きていく上で大切なことである。

指導に当たっては、自律的な精神と責任をもって行動し、自分の選んだ行動に責任をもとうとする主体性と人として誠実によりよく生きていこうという態度を育てたい。また、自分が誠実に行動したことによって周りがどう感じ、どんな影響を受けるかを考えることや、誠実に行動できたときの自分の気持ちを考えることでその価値に気付けるよう指導をしていきたい。

⑵　これまでの学習状況及び生徒の実態について

生徒たちは、小学校の高学年で「自由と自分勝手との違い」や、「自由な考え方や行動の持つ意味及びその大切さ」について学習してきている。また「誠実」については、自分自身に対してだけではなく、外に向けても誠実さを発揮することの大切さを学習してきている。本年度は「二人の約束」という教材を用い、どんなに小さな行為でも自分で考え、決めたことについて責任を持とうとする実践意欲を高める学習を行った。

本学級の生徒は明るく活発で、困っている者に対しても進んで手をさしのべることができる。また、自分の考えをしっかりと持ち、他人にそれを伝えることができる生徒も増えてきた。しかし、その一方で、多数の意見に同調し、傍観してしまい、その場の気分や雰囲気に流されてしまう面が見られる生徒も少なくない。このような実態から、日々の生活の中で何が正しく、何が誤りであるかを自ら判断し、自分が正しいと判断したことは周囲の目を気にすることなく、自分で行動することが大切であるということに気付かせていきたい。そして自らを律し、自分や社会に対して誠実に人として誇りをもった責任ある行動をとることが大切であるということにも気付かせていきたい。

⑶　教材の特質や活用方法について

本教材は、彩の国の道徳「自分を見つめて」の読み物教材である。主人公の美香子が携帯電話の返信メールを返してこなかった仲の良い友だちの優子を気にしながらも、優子を誘わずに他の友だちと一緒に初詣に出かけたところから始まる。そして、主人公美香子が優子からの年賀状を手にしたときに自分に対する深い思いや優しさに気付き、仲間はずれにしてしまったことを後悔し、周囲の友達を気にしながらも優子に対して誠意をもって自分から謝ろうとするという内容である。このように、勘違いや思い違いから自分本位の考えに陥り、安易に友だちに同調してしまうようなことは、生徒の身近な生活の中で起こりうることである。主人公美香子の気持ちや考えに寄り添いながら、美香子の心の変容に迫り、美香子自身の意思に即した行動を通して、自分で判断し、実行することの大切さを考えさせたい。そのため、以下の場面を基に話し合うことにする。

①「メールを返してこない優子が悪い。」と、携帯電話を置いたときの美香子の気持ちについて考える場面

一時的な感情に流され、友達の誘いを断れずに優子を仲間外れにして初詣に行ってしまった主人公の弱さに気付かせる。

②美香子が「優子を誘ってもう一度、一緒に初詣に行かない？」と真希に電話をかける場面
自分の軽率な行動を素直に反省し、優子に謝ろうとする美香子の誠実な態度に気付かせ、自分で判断し、行動することの大切さを考えさせる。
以上の理由から、本主題を設定した。

4　ねらいとする道徳的価値について考えを深める指導の工夫
(1)　導入　・アンケート結果をもとに、本教材の道徳的価値への問題意識をもたせる。
(2)　展開　・多様な意見を出させるための発問を工夫する。
・意見を出しやすいよう、班での話合いを取り入れる。
・内省化にあたっては書く活動を取り入れ、じっくりと自己を見つめさせる。
(3)　終末　・偉人の言葉を紹介し、終末に余韻をもたせる。

5　学習指導過程

段階	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	・指導上の留意点　☆評価の視点
導入	1　周りの意見に流されて行動してしまった経験を想起する。	・部活動を選ぶとき、仲の良い友達が入るからという理由で部活動を選んでしまった。 ・自分の意見とは異なっていたが他の意見の方が多かったので、多い方の意見にしてしまった。 ・やってはいけないとわかっていたが周りの人に合わせてしまった。	・事前に「周りの意見にながされて行動してしまった経験」についてのアンケートを取る。 ・アンケート結果を提示し、日々の生活の中で、他人の言動に左右されていることがあることに気付かせる。
展開	2　教材「私たちの初詣」を聞き、話し合う。 (1)「メールを返してこない優子が悪い。」と、携帯電話を置いたときの美香子はどんな気持ちだったのだろうか。 (2)美香子が、優子に絶交メールを送ろうとする真希の携帯電話をとっさに取り上げたのはどうしてだろう。 (3)優子を誘ってもう一度初詣へ行くことを真希に提案したのは美香子のどんな思いからだろうか。	・優子が悪い。 ・優子はメールを見ていないのかもしれない。 ・優子のことが気になるが仕方ない。 ・真希の言うとおりだ。 ・みんなが言っているからそうなのかもしれない。 ・みんなにあわせておこう。 ・絶交はやり過ぎだ。 ・優子がかわいそう。 ・優子とは友だちでいたい。 ・優子は美香子にとって大切な友達だから。 ・優子に自分のとった行動を素直に謝りたい。 ・優子に自分の気持ちを分かってもらいたい。 ・直接謝ることが優子に対する誠意である。 ・自分たちの行動が間違っていたので、正したい。	・優子のことが気になりながらも、安易に周りの意見に流されてしまう美香子に共感させる。 ・友だちの行為を冷静に判断し、自分が正しいと判断したことを誠実に行動する美香子の姿をつかませる。 ・個人で考えた後、班の中でお互いの考えを共有させる。 ・初詣をやり直そうという美香子の思いを多面的・多角的に考えている。（発言）

	＜補助発問＞ もし、真希に電話をかけていなかったら、どうなっていただろう。 ⑷なぜ、自分が正しいと判断したことを行動することが大切なのだろう。 （中心発問） 3　自己を見つめる。 あなたはこれまで、自分が正しいと判断したことを行動していくことがなぜ、大切なのかを考えたことはありますか。今日の授業を終えて考えた事を書こう。	・正しいと思う行動をしたい。 ・大切なものを失うこともあるから。 ・後悔しても取り戻せないこともあるかもしれないから。 ・大切な友達を傷つけてしまうから。	・美香子が電話をかけることができたときと、できなかったときとを比較し、自分にとっても他者にとっても良いと思える行動をしていくことが大切だということに気付かせる。 ・個人で考えた後、班の中でお互いの意見を共有させる。 ☆自分で判断し、誠実に生きていくことがなぜ大切なのかについて様々な角度から考えようとしている。 ☆これまでの自分自身を振り返り、周囲に流されず、自分が正しいと判断したことを実行していくことの大切さに気付き、今後の自分の生き方に活かしていこうとしている。 （発言・ワークシート）
終末	4　偉人の言葉を知る。 他人に同調し仲良くやっていくのは簡単ですが、他人の行動に関係なく、誠実さという最高の基準を守り行動できるなら、あなたは自然に一流の人間に成長していきます。（ナポレオン・ヒル）		・偉人の言葉を紹介し、余韻をもたせて授業を終わりにする。

6　他の教育活動等との関連

事前指導	「周りの意見に流されて行動してしまったことはあるか。」というアンケートを実施する。
事後指導	生徒の書いたワークシートを抜粋したものと板書を道徳コーナーに掲示する。
家庭との連携	学級通信や道徳通信に授業の様子や感想を載せて発行する。
道徳科	教材名「二人の約束」

7　評価

⑴　評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

・美香子の言動を通して、自分で判断し、誠実に生きていくことのよさを様々な角度から考えようとしている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

・自分で判断し、自分の気持ちに誠実に行動していくことの大切さについて自分の生活と結びつけて考えている。

⑵　評価の観点

【教師の指導方法に関する工夫】

・主人公美香子の気持ちの変化や行動を通して、自分で判断し、誠実に行動していくことの大切さについて

実感できるような効果的な発問構成ができたか。
・内省化の時間を十分に確保することができたか。

8　板書計画

テ　誠実な生き方

教　「私たちの初詣」

「メールを返してこない優子が悪い。」と、携帯電話を置いたときの美香子の気持ち

・優子はメールを見ていないのかもしれない
・優子のことが気になるが仕方ない
・真希の言うとおりだ
・みんなが言ってるからそうなのかもしれない

真希の携帯電話をとっさにとりあげたときの美香子の気持ち

・絶好はやり過ぎだ　・優子がかわいそう
・優子とは友だちでいたい　・優子は大切な友達

優子を誘ってもう一度、初詣に行くことを真希に提案したときの美香子の気持ち

・素直に謝りたい
・優子に自分の気持ちを分かってもらいたい
・直接謝ることが優子に対する誠意
・正しいと思う行動をしたい。

もし、電話をかけていなかったら

・後悔　・優子を傷つけてしまった
・優子に謝りたかった　・なぜ、言えなかったのだろう

なぜ、自分が正しいと判断したことを行動することが大切なのか

・大切なものを失うこともあるから。
・後悔しても取り戻せないこともあるかもしれないから。

あなたはこれまで、自分が正しいと判断したことを行動していくことがなぜ、大切なのかを考えたことはありますか。

9　授業の様子